

親子の面会交流を実現する全国ネットワーク

2014年度総会資料

2014年5月24日（日）

文京シビックセンタースカイホール

プログラム

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 【1】 資格審査 | (14:30～14:35) |
| 【2】 議長選出 | (14:35～14:40) |
| 【3】 2013年度活動報告 | (14:40～15:20) |
| ①代表（鈴木） | ②国会・マスコミ（橋本美） |
| ③システム（平久保） | ④イベント（平田） |
| ⑤国内ネットワーク（村松） | ⑥女性ネットワーク（笠原） |
| ⑦編集（鈴木） | ⑧総務（秋庭） |
| ⑨祖父母の会（橋本友） | |
| （参考報告）親子断絶防止法全国連絡会からの報告 | |
| 【4】 2013年度決算報告 | (15:20～15:30) |
| 【5】 2013年度決算監査報告 | (15:30～15:35) |
| 【6】 規約の改定 | (15:35～16:00) |

- 【7】 2014年度役員の推薦 (16:00～16:15)
- 【8】 2014年度活動方針案 (16:15～16:20)
- 【9】 2014年度予算案 (16:20～16:30)

【3】 2013 年度活動報告

①代表（鈴木）

2013 年活動報告

一年前の総会で代表に就いた時、やりたいと思ったこと、やろうと思ったことを読み返し、その時の気持ちを思い出し、この一年で何が成せたか、あるいは力及ばなかったことは何か、という観点から、2013 年度を振り返りご報告とさせていただきます。

会の内側に向けては「活動の可視化により開かれた運営を目指します」と明言しましたが、これはあまり成し得ませんでした。会員の方から「もっと情報配信を」という要望を受けることもありましたが、配信できる情報は逐次ホームページに掲載してきました。代表を務めてみて「何もかも開示できるものではない、むしろ開示できないことが 7~8 割、結果が出て報告できることはほんの 2~3 割ほどである」と知りました。では「開示し得ないこと」とは何でしょうか？日々の会の運営、独自の陳情、マスコミからの依頼で相応する当事者との間に入って繋ぐ、テレビ番組の不適切な発言に対する抗議、著名な当事者へのアプローチ、依嘱運営委員への説明と招致、個人相談、関係省庁とのコンタクト、行政とのやり取り等、代表の仕事は人知れず毎日山のようにありました。最終的に、代表をしなからでは機動力を発揮してやりたいことに手を付けられないと悟りました。今ようやく、孤独だった代表の胸のうちの少しを開示することができました。やり残したことは引き続き来期、一運営委員としてやっていきたいと思えます。

次に、初の女性代表だったわけですが、この問題が「男性対女性」の構図の問題ではないことをアピールしたり、問題の本質や核心に触れる話ができる環境づくりには貢献できたのではないかと考えています。

日本リザルツとの良好な関係維持も活動方針として挙げていましたが、気付けば職員として働くようになっていました。日本リザルツで経験、吸収できたこと、力を貸してもらえたことは数知れず、心から感謝しています。国際貢献の活動を通して、思いもなかったこととこの問題が深く結びついたり、解の公式が共通していたりして、たくさんの発見と驚きと貴重な出会いの連続でした。リザルツの事務所に私を訪ねてくるのはほとんどが男性で、スタッフからは「みんなに頼られる親子ネットのお母さん」と言われています。女性代表として、そう呼ばれることは光栄なことだと思っています。今後は、リザルツに頼るばかりでなく、パートナーとしてやっていけるだけの組織力を備えたり、資金調達を成功させていく必要があるかと思えます。

親子ネットの活動としては、毎月の定例会、運営委員会の開催、2013 年 9 月は定例会の代わりに「全国一斉イベント」、2013 年 12 月はクッキングイベント、2014 年 1 月には棚瀬一代先生講演会「離婚で壊れる子どもたち」を開催しました。

去年の総会で会員の皆さまから出た「情報交換の場が欲しい」というリクエストにお応えして、サイボウズを導入しました。慣れれば簡単で安全ですが、インターネットが苦手な方や祖父母の立場の方々等の利便性も考えていかなばならない側面もあるものの、こうしたツールを利用して当事者同士の情報交換をしていただけると、励みになったり勇気づけられたりするものです。ある運営委員が言いました。「当事者同士の結束って華僑みたいだ」と。この言葉は言い得て妙で、私も親子ネットで貴重な仲間を得ました。ひどい目に遭いつらい思いもいっぱいしましたが、そ

れでも自分が子どもを連れ去ったり引き離したりする親でなくてよかったと思えるのは、こんなに人が好くて素晴らしい人たちと出会えて一緒に活動できたからだと思います。定例会で知り合った当事者同士で相互支援し合ったり、学校行事に同行し合ったり、生涯にわたる心の友を得たと話される方もいらっしゃいます。

全国連絡会の動きに目を転じると、この一年は大きな進展がありました。皆さまご存知のとおり、2月20日の院内集会に続いて、3月18日には「親子断絶防止を考える議員連盟」の設立総会が開催されました。4月1日からはハーグ条約も発効しています。議連の勉強会はこれから続いていきます。今こそ、団体の枠にとらわれず力を集結して進む時です。一人ひとりが、都度の勉強会や進捗状況に応じて、今どう協力すべきかを考え力を尽くしていかなければなりません。

皆さま、この一年ありがとうございました。役員は交代しても、基本的な姿勢に変わりはありません。2014年度も歴史に残る大事な一年です。まだまだがんばってまいりましょう。

②国会・マスコミ（橋本美）

親子ネット会員、会員ではないけれど親子の問題の解決に向け頑張っている当事者、国会議員、専門家・有識者、私たちを支援して下さるすべての皆さま、一年間大変お疲れさまでした。

2014年4月1日、皆さまの長年のご努力により日本にもハーグ条約が発効・運用開始されました。これからは、結婚が破綻した夫婦の一方によって、国外に不法に連れ去られた子供を保護するため、元の居住国への返還などの手続きを定めたルールに基づき、国際的な子の連れ去り・親子引き離しは大幅に減少することは明らかです。しかし、ハーグ条約が発効・運用開始されたとはいえ、当事者の皆さんを常に苦しめている国内の裁判所の実務場面では変化をほとんど感じられず、旧態依然であります。

2014年3月18日に、親子断絶防止法整備を求める全国連絡会が「親子断絶防止を考える議員連盟」の設立総会を開催し、自由民主党馳浩先生を中心に超党派で日本国内で日々起きている子の連れ去り・親子引き離し問題を無くすための法整備に向け動き出しました。徐々に徐々にではありますが、私たち当事者を取り巻く環境は変化しつつあります。しかし、国会議員の先生方のお力だけでは法整備は勝ち取れません。私たち当事者がこの酷い現実を国内に留まらず国外にも声を大にして訴え、世論を動かす波を創りださなくてはなりません。

昨年9月に日本リザルツ白須代表・スタッフ・インターンの学生のバックアップをいただき、全国16か所で当事者・支援者の力を合わせ「りこちゃんキャンペーン」と題し、一斉イベントを開催しました。北は札幌から沖縄まで全国でリーフレットやビラを多く配布し、自らの言葉で声を出しこの酷い現状を世に広めて来ました。リーフレットやビラ配布を通じ感じたのは、街中からの声は単独親権制度の現状よりも、別居・離婚しても親子は自然に会え、母親・父親の両性から愛される共同親権であるべきであると望む声が多数であるということです。今後も、親子断絶防止法整備を求める全国連絡会や「キミドリプロジェクト」（野村代表）・他団体と連携し、引き続き活動を続けていきたいと思えます。

テレビ・新聞・雑誌など多数のマスコミの方々から、子の連れ去り・親子引き離し問題について取材要請があり、メディアからの取材に積極的に対応して参りました。お忙しい中お時間を頂戴し取材にご協力くださった会員の皆さま、ありがとうございました。

私たちは優しい母親、父親、おじいちゃん、おばあちゃんであるということを理解いただければ前進であり、その過程の中でマスコミの方々が親子を切り離す日本の状況に切り込んでいただければ本当に感謝に値すると考えています。親子が切り離されない世の中を実現するには、この根深い問題を世の中の方々に広く知っていただくことが大切であり、マスコミの方々への感謝は忘れてはならないと考えています。親子(祖父母と孫)が自然に会える社会を創り出すために、来期も力を合わせ頑張っていきましょう。

③システム（平久保）

1.会員管理

会員の皆様へ発送物をお届けするための住所管理を行いました。

累積会員数 487 名（2014/03/24 現在） うち、2013 年度は、69 名の入会がありました。

2.ホームページ管理

ホームページの情報更新作業を行いました。 2013 年度は一日平均、約 130 件のアクセスが



あります。
例年同様、

入会者の9割以上がホームページからの入会となっております。

3.会員用公式グループの立ち上げ

会員増加に伴い、新たに情報交換ツールとして、グループウェアサイボウズ Live を利用した「親子ネット会員用公式グループ」を開始致しました。現在、93 名の方に利用頂いております。（その他、参加待ち 113 名）

（参考資料：2010 年からのアクセス数推移）

(参考資料 : 2013 年度地区別アクセス数)

1. Japan	63,041 (97.60%)	11. Cambodia	26 (0.04%)	21. Austria	8 (0.01%)
2. United States	577 (0.89%)	12. Singapore	21 (0.03%)	22. Ireland	8 (0.01%)
3. China	521 (0.81%)	13. New Zealand	17 (0.03%)	23. Ukraine	8 (0.01%)
4. United Kingdom	48 (0.07%)	14. Vietnam	16 (0.02%)	24. Indonesia	7 (0.01%)
5. Taiwan	43 (0.07%)	15. South Korea	14 (0.02%)	25. Spain	5 (0.01%)
6. Canada	31 (0.05%)	16. Thailand	13 (0.02%)	26. Sweden	5 (0.01%)
7. Germany	29 (0.04%)	17. Hong Kong	12 (0.02%)	27. Italy	4 (0.01%)
8. (not set)	27 (0.04%)	18. Malaysia	12 (0.02%)	28. Netherlands	3 (0.00%)
9. Australia	26 (0.04%)	19. India	11 (0.02%)	29. Poland	3 (0.00%)
10. France	26 (0.04%)	20. Guam	10 (0.02%)	30. Switzerland	2 (0.00%)

(参考資料 : 2013 年度国別アクセス数)

④イベント (平田)

本年度の活動として、特筆すべきは大きく二点。

順位	市区町村	訪問数	順位	市区町村	訪問数	順位	市区町村	訪問数	順位	市区町村	訪問数	順位	市区町村	訪問数
1	Minato	6998	21	Chiba	582	41	Nakano	253	61	Maebashi	184	81	Hiratsuka	122
2	Osaka	6668	22	Sakai	577	42	Kawaguchi	245	62	Tsu	179	82	Kanazawa	118
3	Shibuya	5942	23	Saga	563	43	Bunkyo	244	63	Takatsuki	172	83	Toyonaka	117
4	Yokohama	2763	24	Toyama	490	44	Koto	240	64	Akita	169	84	Nagasaki	115
5	Nagoya	2561	25	Suginami	452	45	Yokkachi	228	65	Hachioji	166	85	Yamaguchi	113
6	Setagaya	1900	26	Nerima	441	46	Sumida	226	66	Nara	156	86	Matsudo	107
7	Saitama	1645	27	Shanghai	430	47	Takamatsu	225	67	Sagamihara	154	87	Kogawa	107
8	Chiyoda	1503	28	Hiroshima	429	48	Niigata	223	68	Aomori	153	88	Kurashiki	107
9	Kobe	1477	29	Okayama	427	49	Mito	220	69	Ageo	151	89	Shiki	104
10	Shinjuku	1359	30	Edogawa	362	50	Adachi	218	70	Sakura	150	90	Suita	99
11	Fukuoka	1343	31	Kumamoto	359	51	Ota	214	71	Otsu	140	91	Kochi	94
12	Sendai	982	32	Okazaki	345	52	Taito	213	72	Tokushima	140	92	Koriyama	86
13	Sapporo	865	33	Hamamatsu	343	53	Tsukuba	211	73	Matsumoto	130	93	Hakodate	85
14	Toshima	794	34	Kawasaki	337	54	Gifu	207	74	Otawara	129	94	Ichikawa	85
15	Chuo	786	35	Nagano	337	55	Morioka	201	75	Katsushika	128	95	Tokorozawa	80
16	Kyoto	739	36	Shizuoka	334	56	Shinagawa	199	76	Hachinohe	127	96	Tsuchiura	79
17	(not set)	722	37	Naha	278	57	Meguro	198	77	Oita	127	97	Kashiwa	79
18	Utsunomiya	675	38	Kure	272	58	Takasaki	196	78	Funabashi	126	98	Musashino	79
19	Chofu	616	39	Itabashi	269	59	Matsuyama	193	79	Yamagata	124	99	Nishinomiya	78
20	Kagoshima	613	40	Urayasu	268	60	Wakayama	187	80	Kita	122	100	Hirakata	77

—
点目
は、
2013
年9月
12日
に行
われ
まし

た「りこちゃんキャンペーン」全国一斉イベント、

もう一点は、2014年1月25日開催の棚瀬一代先生講演会～離婚で壊れる子どもたち～ が挙げられます。

「りこちゃんキャンペーン」は、北は北海道(札幌)から、南は沖縄(那覇)の全国16か所にて、当事者・支援者が団体の枠を超え、力を合わせての開催となりました。シンボルカラーであるキミドリ色のものを身に付けて、「りこちゃんリーフレット」を配布しながら、離婚後の面会交流・共同養育の重要性を街頭で訴えました。この活動は、朝日新聞をはじめ、各紙でニュースとして取り扱われ、大きな反響を呼んでおります。

親子ネット主催による「棚瀬一代先生講演会」は、神戸親和女子大学客員教授の棚瀬一代先生をお招きして、「離婚で壊れる子どもたち」と題し、講演を行っていただきました。同名の著書にても、離婚後の「片親不在」や「片親疎外」の中で子どもたちがどのように成育していくのか、実証研究や臨床経験をもとに解説されており、本講演会では、別居・離婚により親子交流が断たれてしまう日本の現状が、子どもの心の育成にどれだけ危険なことなのか、どうすべきなのか臨床心理の立場からお話いただきました。講演時間は、当初90分程度を予定しておりましたが、終了してみると休憩なしの120分と、先生のこの問題にかけるご信念と、70名以上の参加者の熱意を感じ、大盛況のうちに終演となりました。来年度も、この問題を社会に訴えかけるイベントを企画してまいります。

2013年度の親子ネットイベント実施実績は以下の通りです。

開催日	内容
2013/9/7	全国一斉イベント
2013/12/7	クッキングイベント
2014/1/25	講演会

⑤国内ネットワーク（村松）

2013年5月 国内ネットワーク担当就任を皮切りに当事者の皆さんの傷ついた心を元気にするべく全国行脚に赴きました。

2013年5月 愛知県の当事者と親子ネット関西の方と、岸和田市民フェスティバル参加、愛知、岐阜、三重、兵庫、和歌山、大阪、神奈川の方々とお会いできました。

8月 関東にて新たな当事者の方々と交流、意見交換

9月 「りこちゃんキャンペーン」リーフレット配布イベント
(親子ネット静岡参加浜松駅前)

2014年3月 岸和田にて親子ネット関西、代表（浅野さん）と交流。

上記の他にも、数回関東にて当事者と交流をもって今年度活動は、終了いたしました。

⑥女性ネットワーク（笠原）

『連れ去った者勝ち』状況が続いている為か、通常は母性優先の原則で優位なはずの女性の中でも子どもと離れてしまった会員が増えてきました。今までは追い出される、又は離婚や別居時に主に経済的理由などで子どもとの生活を諦めざるを得なかった女性当事者が多かったかと思いますが、最近は男女での状況の違いが少なくなってきた様です。今年度もホームページからのお問い合わせやイベント、定例会に来て頂いた女性当事者は同性として、少しだけ先輩として何か力になれないかと思いながら活動してきました。イベントや定例会を通じて様々な状況の女性当事者が増えたことで今後も組織としての幅が広がること、知恵を出し合って協力していけるものと期待しています。

昨年度迄女性会員数： 31名 2013年度新規加入女性会員数： 9名

⑦編集（鈴木）

2013 年度に発行した会報は以下の通りです。

「引き離し 28 号」	2013/7/6 発行	「引き離し 29 号」	2013/10/12 発行
「引き離し 30 号」	2014/2/8 発行	「引き離し 31 号」	2014/4/19 発行

・2013 年度も、「会報を紙に印刷し会員の皆様へ送付する」手法を守って参りましたが、現在、会報送付数は有識者も含め 400 部を越える数になり（印刷部数は 500 部）、緑色用紙や封筒の手配、運搬、封入作業も大変になってきました。午前中会報を印刷・発送し、昼食もとれないまま午後の定例会場へ移動するのが恒例となっています。その一方、会員の方から「HP にアップされるのだから私は送付不要です」という申し出も 2013 年度中数件ありました。そこで一旦、会員の皆様の「会報送付」のご希望について調査し、2014 年度は「送付不要」の要望にも応えつつ、印刷・発送の作業負担を軽減することができたらと考えます。

・全国連絡会や各団体のこれまでの活動がやっと花開き始め、ハーグ条約加盟や議連の設立という大きなニュースに結びついたと思います。「引き離し 31 号」は議連の役員 45 名の先生方全員に議連参加のお礼の言葉を添えてお送りしました。今後も全国連絡会関連の動きもきちんと会報に残していきたいと思います。

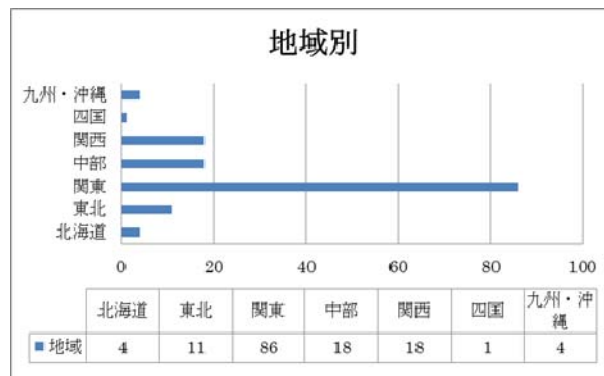
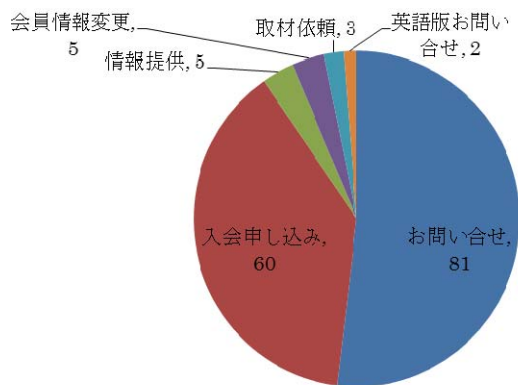
⑧総務（秋庭）

2013 年度は、佐々木、秋庭、山崎が総務を担当し、途中から大村、笠原が加わり、システムチームと共働して定例会、運営委員会、総会の会場手配、議事録作成、および一般会員へイベント通知、お問い合わせ対応等を行いました。定例会会場の予約で毎回苦労することも多く、予約や連絡が遅くなったりして会員の皆様には多大なご迷惑をかけてしまいました。次年度は、極力会場の固定化、情報のスピード開示を図りたいと思います。

2013 年度に開催された定例会・運営委員会は下記の通りです。

開催日	内容	開催日	内容
2013/6/15	第 4 7 回運営委員会	2013/11/16	第 5 2 回運営委員会
2013/7/6	第 3 7 回定例会	2013/12/29	第 5 3 回運営委員会
2013/7/20	第 4 8 回運営委員会	2014/2/8	第 4 1 回定例会
2013/8/17	第 4 9 回運営委員会	2014/2/22	第 5 4 回運営委員会
	第 3 8 回定例会	2014/3/8	第 4 2 回定例会
2013/9/7	第 5 0 回運営委員会	2014/3/15	第 5 5 回運営委員会
2013/10/12	第 3 9 回定例会	2014/4/5	第 4 3 回定例会
2013/10/19	第 5 1 回運営委員会	2014/4/19	第 5 6 回運営委員会
2013/11/9	第 4 0 回定例会	2014/5/24	総会

また親子ネットホームページのお問合せ窓口を通して、会員・非会員の方々から計 156 件（2014 年 3 月 25 日現在）のお問い合わせをいただきました。深刻な現状を報告される内容のものも多く、毎回当番の運営委員が『相談者に寄り添い、なるべく丁寧に』を心がけて対応にあたりました。



⑨祖父母の会（橋本友）

5月、12月、3月、孫に会えない祖父母からの問い合わせがあり、中西さんに対応していただきました。返信内容は仲間がいるということと、一緒に活動しましょうと入会のお誘いが主な内容です。

大半の祖父母は考えもしないことが突然身に起こり戸惑い、ただただ当事者まかせになってしまい、解決出来ないもどかしさを感じていましたが、仙台では祖母の立場の笹さんが、盛岡の小森林さん(祖母)や近隣の当事者と協力し「親子ネット東北」を立ち上げ主体的に活動されることになりました。

祖父母の会として2013年度中に参加した活動は下記のとおりです。

- 9月 全国一斉街頭 りこちゃんキャンペーン（啓蒙活動）
- 10月 飯田橋ボランティアセンターにて「引き離し」会報の封入・発送作業
- 1月 棚瀬一代先生の講演会
- 2月 親子風船キミドリリボン（大宮駅前）
- 2月 院内集会 祖父母9名出席
- 3月 親子断絶防止を考える議員連盟設立総会

議連の設立総会では、祖母による当事者発表がありました。「祖父母と孫も同じ家族でした」の言葉が胸を打ちました。

なかなか理解されなかった親子断絶の問題でしたが、徐々に世間に注目されるようになりました。祖父母も孫と自然に会えるよう一日も早く法整備を行う必要があると痛感しています。親子ネットを支援して下さっている日本リザルツの白須代表がおっしゃった「私達一人ひとりに世界を変えていく力があると信じています」の言葉に、元気と勇気をいただき前向きになれました。祖父母の会はこれからも親子ネットの方針に基づき皆さんと共に活動して参ります。

（参考報告）親子断絶防止法全国連絡会からの報告(平田)

当会の加盟する「親子断絶防止法 全国連絡会」の活動の現状についてご報告いたします。

【4】 2013 年度決算報告

親子の面会交流を実現する全国ネットワーク

平成26年3月期決算報告書

貸借対照表

平成26年3月31日 現在

単位:円

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	【165,181】	【流動負債】	【0】
現金	2,812	未払金	0
預金	162,369	前受金	0
		負債合計	0
		正味財産の部	
		【正味財産】	【165,181】
		前期繰越正味財産	382,639
		当期正味財産増加額	-217,458
		正味財産合計	165,181
資産合計	165,181	負債・正味財産合計	165,181

正味財産増減計算書

自 平成25年4月1日

至 平成26年3月31日

単位:円

科目	金額	金額
【増加原因の部】		
会費収入	406,000	
寄付金収入	90,737	
講演収入	108,100	
利子	58	
その他収入	112,000	716,895
財産増加額		716,895
【減少原因の部】		
財産減少額		934,353
当期正味財産増加額		-217,458

減少原因の部:内訳

自 平成25年4月1日

至 平成26年3月31日

単位:円

科目	金額	金額
旅費交通費	6,790	
通信費	0	
交際費	113,927	
人件費	0	
発送費	185,890	
仕入	205,572	
消耗品費	207,159	
印刷費	20,233	
諸会費	0	
新聞図書費	0	
講師謝礼	40,000	
施設使用料	95,200	
システム管理費	57,250	
広報費	0	
会議費	2,032	
雑費	300	
合計		934,353

【5】 2013 年度決算監査報告

監 査 報 告 書



親子の面会交流を実現する全国ネットワーク

代 表 鈴木 裕子 殿

親子の面会交流を実現する全国ネットワークの平成 25 年会計年度の財産の状況について監査を行った結果につき、以下のとおり報告いたします。

監査対象期間：平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで

監査の方法： 会計担当者からその職務の執行状況を聴取し確認しました。
会計帳簿等の調査を行い決算書類の監査を実施しました。

記

監査結果：

- (1) 決算報告書は本会の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 決算書類は損益及び財産の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 一部、領収書等の確認できない出金があるものの、会計帳簿には記載すべき事項が正しく記載されており、収入・支出につき漏れなく記載されていることを認めます。
- (4) 上記の決算報告書と会計帳簿の記載が合致しているものと認めます。
- (5) 会計担当者の職務執行に関する不正な行為、又は、法令若しくは規約に違反する事実は認められません。

平成 26 年 4 月 1 日

監査人 片 哲 也 

【6】 規約の改定

第1章 総会

第24条 総会は本会の最高議決機関であって、毎年1回開かれる。ただし、有資格会員総数の10分の1以上の会員から要求があったとき、または運営委員会が必要と認めて決議したときは臨時に総会を開かねばならない。

会員総数 → 有資格会員総数 に変更

第26条 総会は、有資格会員総数の10分の1以上の出席によって成立する。ただし委任による出席を認める。

会員総数 → 有資格会員総数 に変更

付則

2009年8月29日 制定

2010年9月25日 改訂

2011年8月20日 改訂

2012年9月 1日 改訂

2013年6月 8日 改訂

【7】 2014年度役員のおすすめ

代表	片哲也	(会社員)
副代表	佐々木昇	(会社員)
	平久保善之	(会社員)
運営委員	秋庭響	(会社員)
	有井なみ	(会社員)
	飯塚智子	(会社員)
	大村真治	(会社員)
	大谷格司	(会社員)
	岡野哲也	(会社員)
	笠原麻紀	(会社員)
	岸田洋明	(会社経営)
	木村佳宏	(会社員)
	斎藤雅敏	(会社員)
	島井雄人	(会社員)
	鈴木裕子	(団体職員)
	関川秀雄	(会社員)
	武田典久	(会社員)
	高松健二郎	(会社経営)
	出口きみのぶ	(会社員)
	中西アイ子	
	橋本友子	
	平田晃久	(会社員)
	松田力也	(会社員)
	眞有浩一	(会社員)
	松本陵介	(会社員)
	村松一久	(会社員)
■ 監事	藤田尚寿	(会社員)
■ 顧問	青木聡	(大正大学教授、臨床心理士)
	河邑肇	(大学教員)
	コリンP.A.ジョーンズ	(同志社大法科大学院教授)

※運営委員は上から五十音順、個人情報保護の観点から一部仮名が含まれます。

【8】 2014 年度活動方針案

<条約加盟・親子断絶防止法への対応>

本年1月24日には、政府は国際結婚が破綻したときの子ども扱いを定める「ハーグ条約」に署名し、4月1日から条約に加盟することになりました。また、3月18日には超党派の国会議員により親子断絶防止議員連盟が設立され、親子断絶防止法の制定や諸施策の拡充に向けての活動が開始されます。親子ネットではこうした動きが私たちの望む方向に向かう様、皆さまと力を合わせ活動していくことを活動の柱としていきます。

<会員の満足度の向上>

新たな動きも出てくる一方で、個人レベルでは連れ去りに遭ってしまうと子どもたちとの面会や交流の機会を増やすことは依然として容易ではありません。このような中でも、勉強会や定例会を通して、会員の皆さまが、「役立つ情報を得た」、「元気になった」、「また来たい」、「お手伝いをしてみたい」と言ってもらえる様な運営をしていきたいと思ひます。

<社会における認知度・信頼度の向上>

親子ネットでは離婚後・別居後にも「親子が自然に会える社会づくり」をすることを目的として掲げています。この活動を広く認めてもらい支持して頂く為には、活動の内容が公益に資するものであると広く認識して頂くことが大切だと考えます。そのためには、持続可能な組織運営を行いつつ、様々な方法で外部に向けての情報発信を行っていきます。

<外部との協力関係の維持・拡大>

親子ネットは「全国ネットワーク」であることを強く意識して創立されました。組織としての自立を保ちながらも、これまでと同じく、「日本リザルツ」さんをはじめ、全国にある目的を同じくする会や各支部とも引き続き協力関係を維持し、また、当会の目的に賛同して頂ける企業・行政機関にもご協力・ご支援頂けるよう働きかけを行っていきたくと思ひます。

<新しい親子ネットとなるために>

親子ネットも昨年夏に5年目に入りました。これからが親子ネットの第二ステージのスタートだとも考えても良いと思ひます。皆さまは親子ネットの活動を通してどのように目的を実現したいですか？ぜひ、運営委員会や定例会でお話を聞かせてください。皆さまのご提案・アイデアが親子ネットの第二ステージを作り上げていくことになると思ひています。また、そのための仕組みづくりも進めていきたくと思ひます。

「親子が自然に会える社会」という夢に向かって、一緒に新しい親子ネットを作り上げていきましょう。

【8】 2014 年度予算案

親子の面会交流を実現する全国ネットワーク

平成26年度収支予算書

収支予算書〔収入の部〕

単位：円

科 目		金 額	
会 費 収 入			450,000
寄 付 金 収 入			150,000
講 演 収 入			250,000
そ の 他 収 入			0
繰 越 金	平成25年度繰越金	165,181	
合 計			1,015,181

収支予算書〔支出の部〕

単位：円

科 目		金 額	
旅 費 交 通 費			10,000
通 信 費			5,000
交 際 費			100,000
人 件 費			0
発 送 費			200,000
燃 料 費			0
消 耗 品 費			150,000
印 刷 費			20,000
諸 会 費			0
新 聞 図 書 費			5,000
講 師 謝 礼 代			100,000
施 設 使 用 料			150,000
シ ス テ ム 管 理 費			100,000
広 報 費			0
会 議 費			10,000
剩 余 金			165,181
合 計			1,015,181

メモ欄

A large, empty rectangular box with rounded corners, intended for handwritten notes.



親子の面会交流を実現する全国ネットワーク